

『未来被告』問題

沙澄汎奈

はじめに

ネット上で『かざきり羽』問題として騒がれた事件の真相や、加害者グループの手口などです。他人を名指しで悪く言う行為は、民法にも刑法にも規定された違法行為、すなわち犯罪です。

『しない、させない、名誉毀損』

実際に訴訟とし、勝訴した体験をもとに、被害者が一人でも減ることを祈って、ここに本書を著します。

未来被告とは何者か【1】

さて、本書がそもそも「未来被告の名誉を毀損するのではないか？」と考える方もいらっしゃると思います。

そこでまず、お断りさせていただきます。

『未来被告』とは架空の人物です。

オレオレ詐欺の手口を紹介するテレビ番組が、犯人としてVTRを作られた仮名Aさんの名誉を毀損するでしょうか？

犯人の名誉を毀損するでしょうか？

もちろん、しません。

名指しなしでの非難など、私もあなたも、自らの行いを省みて耐えるべきです。

名指しがなければ、私やあなたが実際に悪いことをしていない限り、誰も、私やあなたについて悪人だと誤解しないでしょう。

名指しせずに非難するのは、相手の人権を尊重する、心ある人間です。

自分の人権が尊重されていることに気付かなければなりません。

何よりも、非難されるような悪事を働いたのなら、その悪事を働いたことについて、反省しなければなりません。

罪を憎んで人を憎まず。

罪を犯した人を憎むのではなく、罪そのものを憎みましょう。

しない、させない、名誉毀損。

それが、この本のテーマです。

未来被告とは何者か【2】

さて、それにしても『未来被告』という仮名はなんだろう？ と思われますよね。実は由来があります。

事の発端は、

- （１） 沙澄が主語のない暴言を書いた。
- （２） 加害者グループが暴言の主語は障害者だと言い張った。
- （３） 沙澄は暴言の主語は障害者ではないと回答したが、加害者グループはその回答を無視し、暴言などを閲覧者が誤解を招くように編集・加工して無断転載し、匿名掲示板などで『炎上』させた。

そのような次第で、私はしてもいない障害者差別発言をしたことにされました。

しかし、調べれば調べるほど、私は潔白です。

実際には、

Aさん：祖父の目が見えないという人が、やや沙澄を攻撃する記事を『お絵描き掲示板』に投稿。

Bさん：福祉関係の仕事を目指している学生だと自称する人が、沙澄を攻撃する不適切な記事を『お絵描き掲示板』に投稿。

この段階で、寝る間も惜しんでのファン・サービスのつけで過労状態にあった沙澄は、両記事を削除した上で、Bさんの不適切な攻撃に対し「うざい」などの暴言で応じました。

『お絵描き掲示板』は議論の場ではないと、Aさんへの回答に明記したにも関わらず、関係ないBさんが議論を続けようとしたからです。

ところが、加害者グループは、沙澄がAさんを攻撃したと言い張ったのです。

それはまったく事実ではなく、沙澄は事のはじめからそれを否定しています。

また、沙澄はAさんの記事もBさんの記事も削除してから、暴言を掲載したのですから、本来、それらを関連付けて読まれること自体が迷惑です。

過労で倒れそうな状態だった私に、意味不明なことでガタガタ言ってくる人がいたので、「うざい！」と怒鳴ったから私が差別発言をした？

意味不明にもほどがありますね。

そのような主張が、法廷で通るわけありません。

十分な根拠もなく、何年もの長期に渡り、執拗に私について、障害者差別発言をした、というデ

マをばら撒いてきたのが加害者グループです。

ファンタジー小説サイトとして、大人気だった『かざきり羽』が妬ましかったのでしょう。実力派の『かざきり羽』は、加害者グループが誹謗中傷をやめれば、すぐにも再興してしまうと考え、加害者グループは攻撃を続けたのに違いありません。

さて、加害者グループは全員が匿名なのですが、

（当たり前ですね。違法行為だと、加害者らにもわかっているのです）
個人レベルでは大変な費用負担をして、私は加害者の一人を突き止めました。
そして、２００８年より訴訟抗争となります。

そして、未来被告は答弁書に書いたのです。

２００５年に、未来被告が私を名指しして差別発言者だと言いふらした根拠について。

「訴状（２００８年にはじめて書かれたもの）に差別発言がある、みろ、彼女は差別発言者だ！」

という趣旨の反論を。

——は？

２００８年に差別発言をしたから、２００５年の段階で沙澄のことを差別発言者だと言いふらしていい、というのが未来被告の主張でした。

ちなみに、その差別発言ですが、

「もし、私が本当に差別発言をするような人間だったら、被告らの挑発に激昂して、『○○』のような暴言を吐くことも十分に考えられました。そうなっていたら、関係者がどれほど傷つくことになったと思っているのですか。私に他人を傷つけさせようと思ってやっていたのですか」

という文脈に書かれたものです。『○○』の部分です。

あなたは、この文脈の『○○』の部分に差別発言が書かれたら、書いた人間には差別意識がある、と思いますか？

私は思いません。

裁判所も思わなかったのでしょうか。

未来被告は最終的に、有罪判決を受けることになります。

以上が、『未来被告』という人物の仮名の由来です。

最後に、念を押しますが、未来被告とは架空の人物です。

私に訴えられた人間は実際にいます。

しかし、オレオレ詐欺を働く人間だって実際にいますが、手口を紹介する番組の犯人Aはその誰か、というものではないでしょう。

注意喚起のために手口を紹介するにあたり、わかりやすさのために造られた架空の犯人です。

この本では、特定個人が働いた悪事ではなく、当方に対して働かれた悪事を「未来被告の犯行」として紹介いたします。

未来被告が架空の人物であることを、読者の皆様は念頭に据えてお読み下さい。

また、実際に働かれた悪事を紹介しますが、誰がその悪事を働いたかについて、当方は一切、回答いたしません。

加害者にも人権があるからです。

皆様もそのような質問はしないよう、お願いいたします。

そして、他人を名指しで悪く言うことが犯罪である、という事実を周知し、そのような行いをしている人間を見かけたら、被害者が私であってもなくても、それは悪いことだと教えてあげて下さい。

もちろん、あなたの身に危険が及ばない方法で。

注意したら、逆ギレされて刺し殺される世の中です。嫌な世の中です。

他人に注意するのは怖いと思うので、気心の知れた友達が知らずにやっていると知っている時だけでも、教えてあげて下さい。

それは、あなたの友達のためでもあります。

名誉毀損は民法にも刑法にも規定された違法行為なので、被害者の居住地を管轄する警察署・裁判所の担当者が真面目でインターネットに精通している場合、加害者は訴えられ、刑事事件となれば前科者、民事訴訟でも重い慰謝料の支払いを課されます。

しない・させない・名誉毀損。

一人でも多くの方が、この理念に賛同し、住みよい社会づくりに協力して下さることを願っています。

無断転載について

『かざきり羽』は、無断転載の一切を禁止しますとサイトTOPにてお断りしています。ところが、加害者らは引用だと言い張って、平気で無断転載を行います。さて、ここで、自分が書いた文章の責任は持つべきだ、無断転載を禁止する権利などない、と考える方もいるかもしれませんが、無断転載を悪用する手口をご紹介します。

『はじめに』の方にも書かせて頂きましたが、事の発端は、『お絵描き掲示板』での下記の流れになります。

- 【1】 Aさんの投稿
- 【2】 Aさんへの回答（場違いです・注意）
- 【3】 Bさんの投稿
- 【4】 Bさんへの回答（うざいです・暴言）

実際には、Aさんとのやり取りがもう少しあったりしますが、関係ないですし、話がややこしくなるので省きます。なぜなら、加害者グループの手口がこうだからです。

【1】と【4】だけを無断転載し、【4】の暴言を【1】（Aさん）への回答として紹介する。

今まで、無断転載に文句をつけるのはおかしい、書いたおまえが悪いと思っていた方は、この事実を知っても、そうと言い切れるのでしょうか。

また、私が第三者からの削除要請を受けて速やかに削除した記事も、無断転載されています。未来被告はもちろん、私からの削除要請を拒否しました。そして、第三者は加害者グループに削除要請を入れることができません。第三者は出来るだけ目立ちたくありませんが、削除要請を入れることで目立つからです。私は他人の人権を、加害者の人権さえ尊重する人間ですが、加害者グループはそうではありません。私へのやり口を見れば、加害者グループに削除要請を入れることでどんな目に遭うか、火を見るより明らかです。ふつうの人間なら、諦めて泣き寝入りするでしょう。

さらに、私が他人を攻撃したとされる案件のほぼ全てについて、実際には、反撃です。先に攻撃したのは相手の方なので、私に反撃された人たちは、自分で訴えることはしないのです。

。

先に手を出しておいて、反撃されたからって相手を訴えたのでは、白い目で見られますよね。

ここでも、無断転載が大活躍です。

誰かが私を攻撃した記事を、加害者グループはもちろん無断転載しません。

そして、私がその誰かに反論した記事だけを無断転載し、私が一方的に相手を攻撃したと言い張ります。

本当に、引用だと言い張る無断転載は正義なのですか？

実際に行われた民事訴訟において、被告は反訴してきましたが、なんと、自分がしたことを棚にあげての名誉毀損でした。私が裁判を行っている証拠に事件番号を掲載していたところ、それが被告の名誉を毀損すると訴えてきました。

これは、事件番号によって、誰でも裁判資料を読むことが出来ると知らなかった私の過失です。そうと知った私は速やかに事件番号を削除しましたが、掲載した事実は争わず認めましたので、この件について、私も有罪とされています。

さて、ここで注目して欲しいのは、反訴するにあたり、未来被告は長年ばら撒いてきたどのネタも使えなかったということです。

デマばかりなので、どれもこれも、私を訴えるには不十分だったのです。

万が一、加害者グループの方が正しいなどと勘違いしている方がいらっしゃいましたら、これらの事実をよく考えて頂きたいです。

そして、本来であれば、用が済んだら削除する、その時かぎりの記事を拾い集めて無断転載する真似は、ゴミ箱をあさるハイエナ同然です。

そのような方には、その人間性を恥じて頂きたいです。

加害者グループは、私がゴミを出すたびに漁りに来て、捨てたんだから拾った人間のものだと言い張り、後生大事に展示しているのです。

彼女らにとって、私が出すゴミは後生大事に展示するべき、素晴らしく価値のあるものなのです。

。

私はもちろん、そのような行為はプライバシーの侵害と感ずますし、彼女らをストーカーと感ずて気持ち悪く思っています。

皆さんはどうですか？

ゴミの日が来る度に、あなたが捨てるゴミを漁りに来る人間がいたら、どんな気持ちになりますか

？

あなたが出したゴミが、他人が勝手に設立したあなたの記念館に展示されていたら、どんな気持ちになりますか？

ふつうは、ものすごく気持ち悪いと思います。

実際問題として、私は別に悪いことをしていませんし、証拠隠滅のために削除するのでもありません。

ゴミだから、削除するのです。

長年サイト運営をしていると、サポート系を中心に、いらなくなる記事は山ほどあります。

『かざきり羽』は恋愛ファンタジーのサイトですから、そもそも、物語と関係ない記事は、最初からかなりゴミなのです。

そういう、単なるゴミなのですが、上記のような手口で、してもいない悪事の証拠に仕立て上げられているものが、かなりあります。

サイト運営をしていると、ゴミを出さないわけにはいきません。

ファン・サービスをしないサイトは、運営しているとは言えないと思います。

しかし、ファンの方への返信や生存報告は、切り貼りすればどうとでもデマのネタに出来ます。

「はじめて蚊を叩き殺しました。血がドバっと出て気持ち悪かった」

という日記の記事、目的語を入れ替えれば殺人犯です。

そのような次第で、『かざきり羽』は年内に閉鎖いたします。

ファン・サービスをやめ、物語の販売だけに切り替えますこと、これまで応援して下さいったお客様には、本当に申し訳ないと思います。

ですが、どうぞ、上記の被害が大袈裟ではないという事情を鑑み、ご理解を賜りたく存じます。

この本の更新について

この本の更新は、2011年以降になると思います。

現在、私が忙しいことと、事件が終わっていないことが、その主な理由です。

二年もかかった裁判は、無事に当方の勝訴で終わりましたが、
未来被告が有罪判決を受けてまで、違法行為をやめないのです。
判決文に具体的に指摘された文言だけを別の文言に置き換えて、違法行為はしていないと言いつ張り、
誹謗中傷をエスカレートさせています。

もう一度、今度は私も弁護士を雇って、本格的な裁判を行う必要があるので、
それが決着してからの更新を予定しています。

※ 沙澄は弁護士をつけない本人訴訟の形で闘い抜き、勝訴しました。

民事訴訟の経験がある方ならわかりと思いますが、相手側だけに弁護士がついている、というのは大変なハンデです。

規制緩和で、弁護士界にも競争が生まれ、売れない弁護士が暴力団にまで手を貸す社会問題が発生していますが、加害者側に悪徳弁護士がつく、というのは今後ますます、当たり前になってくると思います。

私はそれでも勝訴しましたが、相手が弁護士をつける場合には、本人訴訟はお勧めできません。

私がすごく潔白で、未来被告がすごく悪かったから、ようやく勝てたような感じです。
お互いに非がある案件で、片方だけに弁護士がついたら、一方的にやられると思います。
相手が弁護士をつけてきた場合、経済的に余裕があるなら、自分も弁護士をつけた方がいいです。

相手が弁護士をつけない場合は、名誉毀損は間違いなく違法行為なので、本人訴訟で十分に闘えると思います。